

令和4年度 江戸川区立西小岩小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標		学び かがやけ 西小岩の子 考える子 やさしい子 健康な子		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像		どの子供も「学校が楽しい」と感じ、安心して学べる学校 ・主体的・対話的に学び、自他を尊重し合い、互いを大切にできる心豊かな子 ・温かさの中に厳しさも加味し、意欲と自覚・自律を促す、人間味あふれる教師				
前年度までの学校経営上の成果と課題		<成果> 主体的に考え、適切に表現する児童」言葉に着目して考える「読み」の学習を通して～を研究主題として国語科における指導の推進を实践できた。コロナ禍の中でも、落ち着いた学級・学校経営を図ることができた。 <課題> 学力の向上、教員の授業力向上。保護者の理解を得た特別支援教育の推進。								
教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標		自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント			
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習(ステップアップタイム)の計画的推進と東京・ベーンック・ドリルの実施 年3回、診断シート実施による基礎基本の定着度分析 外部委託業者による、算数に特化した補習(2年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「算数ができるようになった」の回答、80%以上 東京・ベーンック・ドリルの70%通過率、低学年70%、高学年60% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 東京・ベーンック・ドリル70%通過率が3年は目標を達成したが、その他の学年は、3から8ポイントとまだまだ低い。どの学年でも目標値を達成できるようなステップで指導していく。 外部講師による補習を引き続き実施。算数の基礎的な力が伸びてきた児童が昨年より少しずつ増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 問題の概要をしっかりと読み取れるよう、俯瞰的に考えられる指導ができること。 外部講師が補習をすることで、子供たちの理解が深まることは区の施策としてよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現学年以前の学習内容の理解が十分ではない児童の底上げに努める。 朝学習(ステップアップタイム)について、基礎的な学習の成果が得られるよう工夫する。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた探究的な学習の充実(読書ノート等の活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめる表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) 学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 読書タイムの活用と、読書月間の設定・10月、2月 全校読書科ノートを活用した授業の実施・2回以上 読書通帳の活用と読み聞かせの充実 図書館員によるブックトークや巡回による学校図書館整備 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年「江戸川区調べ学習コンクール」に応募 児童アンケートで「すんで本を読んだり分からないことを調べたりする」の回答90%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 全児童が調べ学習コンクールに応募、進んで本を読んだり分からないことを調べたりする児童が80%以上いるものの、目標値には達成していない、さらなる呼びかけや、読書の時間での工夫が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より復活した図書ボランティアをうまく活用して欲しい。 コロナ禍のため今まで実施できなかったが、今後は、地域・保護者に対して、「読み聞かせボランティア」の募集や「子供に読ませたい本」の募集を行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書科の工夫、学力向上委員会が検討し、全校で取り組む。 月に2回来校する図書館員を活用し、図書室整備と読書科の計画の改善を図る。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間を活用しての取組や体育の授業、休み時間における全校運動遊びなど、主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 元気アップタイム・体育朝会の充実 児童アンケートで、体育の授業で頑張れた、外遊びをしていると回答85%以上 新体力テストでの全体でのポイントが1~2以上、上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで、「体育の授業で頑張れた」「外遊びをしている」と回答85%以上 新体力テストでの全体でのポイントが1~2以上、上回る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業で頑張れた、外遊びをしている児童80%と、まだ目標を達成できなかった。 新体力テストでのポイントが平均1ポイント下回った。ポイントを絞って取り組めるようにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供は適応能力があるので、日頃から体力づくりなど積極的に実施して欲しい。家庭でも取り組めるような内容を実施してはどうか。 身体を動かす機会を、活動の中でたくさん提供してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト内容の日常化を図る。(「投げつき」などの工夫) 運動活動のさらなる取り組みを検討する。 元気アップタイム、休み時間の遊び等の内容について改善していく。
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上とALTの効果的な活用 全学年で外国語活動を取入れた学習内容の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 専科教員による系統的な指導 中学校区での連携(情報の共有) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「外国語・外国語活動が楽しい」と回答80%以上 特別活動や中学校との連携を図った活動を年2回以上実施。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 専科教員による一貫性のある外国語の授業を実施しているため、授業への意識は高い。 「イングリッシュ・デイ」などの取組を今後取入れていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の専門の方に教えていただくなど、連携を取り行う取組があること。 楽しみながら活動できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 専科教員の授業を、できるだけ多くの教員が参観するなどして、児童の変容を確認していくようにする。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン視点の取組 エシカレッジ担当者との情報共有等の連携 エシカレッジルームの活用促進 副籍交流、交流及び共同学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会…年5回以上 ケース会議・支援会議の充実…月1回以上 エシカレッジ担当者との情報共有等の連携…週1回以上 副籍交流を年1回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究(国語科・物語文)の学習において、ユニバーサルデザインの視点を授業にしている教員100%(教員アンケート) 外部講師による校内研修や外部の学校との交流…年1回以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な状況の中で過ごしている児童について、個に応じた指導のさらなる充実をお願いしたい。 エシカレッジルームについて、もっと保護者を知らせていく、多くの児童が活用していることを知った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議を適宜実施し、学校全体で情報共有できるようにする。 個別の面談を設けたり、学校の様子を知らせていくなどして、保護者への理解を十分得られるようにする。 	
	健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルトレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会…毎週水曜日 心のアンケート…年3回 道徳授業の充実 道徳授業地区公開講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> いじめをなくしていくような環境づくりと、早期発見・早期対応で組織的に解決していく。 児童アンケートで学校が楽しいと回答90%以上 道徳授業公開…年1回以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」の回答80%以上、引き続き、安心・安全に努め、心の教育を推進していく。 あのほBOXを設置、気軽に相談できる環境づくりを行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育アンケートの内容についてわかりやすくして、情報が入りやすくなっていくようにしていく。 家庭での生活習慣等について疑問を感じる場を見る。早期に協力・相談できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・児童支援部で、検討すべき内容について精査していく。 情報の活性化を図り、学校全体で「心の育成」に取り組む。
	校内体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 専門家チーム等を招いての特別支援教育の視点に立った学習環境づくりの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修…年1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の理解を深めた教員100%(教員アンケート) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 専門家チームは1回、特別支援教育士1回の招へい機会を設定し、校内で研修した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携を進めてほしい。 民生児童委員との連携も、今後考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> SSWの活用や、担当の窓口を設ける等連携しやすくなっていく。
教員の資質向上	学校評価・学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校評価の実施 学校関係者評価の計画的な実施及び改善 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に基づいた指標とそれに対する成果の分析を年2回実施 経営支援部を立ち上げ、月1回、協議・検討実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の実施…年2回 学校関係者評価の実施…年1回以上 経営支援部会の実施…月1回 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 内容の確認を行い、改善策があれば提案を立てて実施する。 中間の学校関係者評価を実施し、年度内に改善できるものを検討した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 組織的に学校全体を見ていけるようにしていきたい。 特に安全にかかわることについては、今後も検討して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルで、年度内でも改善できることは実施していけるようにする。
	校内研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> 国語科(物語文)を軸に思考力・判断力・表現力を向上させる授業の充実 授業改善意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いての校内研究授業を年4回以上実施 主観教諭等による実践研修会年3回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「物語文が分かるようになった」と回答70%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 4回の研究授業を実施した。年度末に全児童対象振り返りアンケートを実施。「物語文が分かるようになった」と回答平均80%以上で目標は達成した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の学習では、児童の発案意見交換が見られていた。 3年ぶりの展覧会の実施で、子供たちの心が豊かになってると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、低・中・高・専科のブロックごとに研究を深める体制を整える。
	校内OJTの充実	<ul style="list-style-type: none"> 西小岩スタンダード(授業ユニバーサル)の徹底と 主幹教諭による物語文研修会の実施 西小岩小スタンダードの振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 企画会の裏でOJT研修年10回 OJT研修での主任教諭の講話年1回以上 主幹教諭による物語文研修会の実施 西小岩小スタンダードの振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> OJTが学びとなった教員90% 学びを授業に活かしていると回答した教員90% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> どの教員も自分のプレゼン内容について興味、考察も行っている。今後も校内体制としてきちんと位置付けていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で大変な中、先生方が積極的に学び、よく研修をしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も西小岩小の「スタンダード」として位置づけ、さらに計画的に実施していく。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、中学校区内で作成した「NorthWest&Fourth」を基に、家庭と連携を図って取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の取組実施、80%以上 「基本的挨拶ができる」と回答80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は全体では60~70%で目標まであと一歩。 挨拶は80%でおおむね目標を達成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をすすんでできるよう、声掛けを行ってもいい。 地域でも積極的に挨拶できるよう児童を今後も育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や家庭学習定着に向けて、目標を達成できるように、具体的な方法を提案するなど、さらに取組を促していく。
	全校俳句の取組	<ul style="list-style-type: none"> 全校での俳句作りを実施し、児童の感性を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> 年間4回の俳句作り 年4回、校内俳句コーナーに掲示 代表児童に、校内で表彰を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「俳句作りが楽しい」「季節を感じるようになった」と回答80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校のおよそ80%の児童が、季節ごとの俳句づくりに楽しく取り組んでいる。目標は達成している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 俳句は子供たちの良さを伸ばすような活動である。季節も感じてほしいので、今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回取り組み、表彰するとともに、年度末に俳句集等の作成もできるようにしていく。
	1年生からの算数習熟度別授業	<ul style="list-style-type: none"> 全学年における習熟度別指導による算数科授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、全単元で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「算数ができるようになった」と回答70%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 算数の理解度は全校平均で67%と一層、基礎的な学習内容の定着が引き続きの課題。 マイルストーンに替わることもあり、年度末には全児童対象振り返りアンケートを実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特色として、全学年で取り組むことで、今後の成果に期待する。 マイルストーンに替わることもあり、年度末には全児童対象振り返りアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京・ベーンック・ドリルは、朝学習(ステップアップタイム)に全校で確実に取り組む。 マイルストーンを活用した取組の構築を行う。